

明石川と共に生きる～淡水ガメ4種～

永田惇人・西岡龍之介・弓削朱花梨・駒板なみ・大浦結那

玉ーアクアリウム

4 species of the freshwater turtles which collected in Akashi River, Hyogo prefecture.

By Atsuto NAGATA, Ryunosuke NISHIOKA, Akari YUGE, Nami KOMAITA and Yuna OHURA

私達、神戸市立玉津第一小学校の玉ーアクアリウムは、在校生と卒業生の約30名が在籍し、1年を通して1週間に1度以上明石川水系の調査をしています。水生生物や植物を調査捕獲し、絶滅危惧種や在来種はリリースして、外来種はリリースせずに外来種の命の大切さも考えて料理をして美味しくいただき、またアクアリウムの畑で栽培している野菜やフルーツの肥料にして、新鮮な野菜や甘いフルーツも美味しくいただいています。外来種の命が私たち人間の命の1部になることで生き物全体のつながりを実感しています。

明石川水系に生息している4種の淡水ガメについて説明します。淡水ガメの割合は、2016年～2022年の7年間のそれぞれの種の平均で出しています(合計しても100%にはなりません)。一番多く捕れるのがアカミミガメで、タモ網調査で捕れる53.1%がこのカメです。コロナ前までは捕れたアカミミガメをみんなで解体して肉を唐揚げにして美味しくいただいていたのですが、今は出来ずに1度冷凍したあと、ナーセリーと呼ばれるアクアリウムの果樹園で剪定した木の枝と共に焼却して灰にして肥料として使っています。毎年無農薬でとても甘いメロンが収穫できます。私たち小学生はまだアカミミガメを食べたことがないので、コロナが終息したらぜひ解体して食べてみたいです。アカミミガメは他の外来種と違って捕獲しても数が減らない感じで、更に次々捕れて反対に増えている気さえします。近年は生まれたばかりの幼体も多いです。昨年(2022年)の神戸市アカミミガメ防除活動では60匹のアカミミガメを捕獲できました。神戸市

アカミミガメ防除活動でいただく助成金は、私たちの調査活動の保険料として大切にに使わせていただき、とても助かっています。

次に多いのがクサガメで、タモ網調査ではカメ類の30.7%位ですが、仕掛けのカゴ網にはクサガメが一番多く入ります。捕獲したクサガメはニホンイシガメと同様に手足がない個体がとても多く、アライグマの姿は見えていませんが、明石川の河原には長い指が特徴のアライグマの足跡がたくさんあるので、アライグマに食べられている可能性が高いです。今はクサガメが捕れたら、ニホンイシガメとの雑種ができることを心配しながらもリリースしています。これから何か方針が決まれば私達もそれに従いたいと思います。クサガメは以前は神戸市絶滅危惧種だったのに今は外来種になって複雑な心境です。

3番目がスッポンで6.1%位で、明石川水系の本流や支流だけでなく用水路にもいます。ニホンスッポンと思っていましたが、私達が活動している近くに昔、外国産のスッポンを育てている施設があったそうで、スッポンが多く見つかる場所もだいたいこの付近が中心なので、在来種のスッポンか外来種のスッポンか知りたいのですが外観では見分けがつかないので困っています。在来種のスッポンなら神戸市絶滅危惧種なので捕れたらリリースしています。

1番少ないのがニホンイシガメで明石川水系のカメ類全体の1.3%位です。でも、この1.3%も本当に純粋なニホンイシガメなのかどうかはわかりません。アクアリウムができた2007年頃は明石川水

系で調査をするとニホンイシガメが時々捕れていたようですが、今は1年間で数匹しか捕れない程に激減しています。中学生のメンバーは明石川水系のニホンイシガメを飼育して、24匹の繁殖に成功しています。

ニホンイシガメとクサガメの雑種は明石川水系にもいて、雑種が見つかるのは多分数が少なくなってニホンイシガメが相手を見つけられないからだと思うので、ニホンイシガメが増えてきたらクサガメとの雑種も減ってくると思います。

外来種を減らすと同時にニホンイシガメがたくさんいた頃の環境に戻すことがニホンイシガメを増やすために、とても大切なことだと思います。私たちも頑張ります。

それから、10年以上前に明石川水系の蘆谷川から当時の中学生メンバーが指を噛まれて血を流しながらカミツキガメを捕まえて持ってきたことがあったそうです。警察に連絡するとパトカー数台が来る大騒ぎとなり、翌朝の新聞にも載ったそうです。明石川水系でのカミツキガメの発見は、今まででこの1度だけです。

玉ーアクアリウムでは、これまで外来種の駆除活動が続けてきて、神戸市絶滅危惧種のヒラテテナガエビなどの希少種は、明らかに個体数が増えてきているのを実感していますが、ニホンイシガメは年々捕まえられる数や水面観察などでもイシガメを観察出来る機会が少なくなっていて危機感を感じています。

最近の調査で捕まえられるカメ類は、イシガメやクサガメよりも凶暴なアカミガメでも手足や顔の一部も欠損した個体が多く確認されていて、アライグマの影響の強さを実感しています。

現在、私達が活動している明石川の中流や下流では、土砂の撤去工事が行われていて、元々葦などの植物が茂っていたかなりの広範囲が工事の影響で植物の生えていない石だけの河原に変わっていて、アライグマにとってはイシガメなどを

見つけて補食しやすい状態になっています。

鳥獣保護法の関係で私達は直接アライグマを駆除することは難しいので、工事が終われば葦などの生き物の隠れ家になるような植物を明石川の他の場所から持ってきて植え付けたりするといった活動を行って小さなことから明石川水系のイシガメの保全に向けて自分達ができる対策をしていきたいと考えています。

これからも明石川に寄り添い多くのことを学びながら活動を続けていきたいです。



図1. 明石川で捕獲された淡水ガメ4種